



「終わり」を伝える工夫

「時間」という目に見えないものを認識することが苦手な障害をもっていると、「指示がないとわからない」状況になりがちです。

でも、「〇〇やって」とか「次は〇〇の時間だよ」とか、いつも誰かに指示をされて行動するよりも、「自分でわかって、できる」方が良いですね。障害がなくても同じです。

▼T君に「終わり」を伝えたい！

先の見通しがわかりにくい特性のT君は、目で見えてわかる工夫をすることでずいぶんと「自分でわかって、できる」ようになりました。しかし一部の流動的な活動では「終わり」が分からず、職員がずっと指示をしています。分かりにくい活動の場合、一般的にはタイマーを使います。そこで様々なタイマーを試してみました。



が、T君にはイマイチ効果なし。他の子には有効でもT君にとっては「わかりにくい」ようです。

こんなときに大事なものは、柔軟な発想で他の方法を考えること。そういえばT君、声かけよりも肩をトントンした方が反応するな・・・

ということで「音」ではなく「振動」で伝える「バイブレーションタイマー」を導入してみました。(高齢の方や難聴気味の方がよく使われているそうです。)



効果テキメン！とまではいかないまでも工夫次第で今後うまく活用できそうです。

デイサービス通信

節分行事



デイサービスで、2月2日に節分の行事を行いました。

昼食に食べる『恵方巻き』を午前中利用者さんたちに手作りしてもらいました。黒ねりゴマを混ぜた薄焼き卵で、海苔を使わない食べやすい『恵方巻き』を作りました。卵焼きが海苔のように黒く焼ける様子に皆びっくり、小ぶりのサイズに巻きました。

昼食には、恵方(西南西)はおかまいなしに、皆丸かじりに挑戦・・・ランチプレートの鬼の面風に飾ったご馳走もステキでした。

午後からのおやつ作りは、これも巻物つぎで『あん巻き』を手作りしました。

豆まきは殻つきの落花生をまき、鬼役の利用者さんに、皆やさしく投げていました。落花生を拾っては投げ、いい運動になりました。

家で一人では「こんな行事を楽しむことはない・・・」とおっしゃられる利用者さんも大半です。

暦の上ではもう『春』です。吊るし飾りやお雛飾りを作ったりして季節を感じられるよう取り組んでいます。



心づれづれ

白内障手術



5年程前から、白内障の手術を勧められていましたが不安や心配やらで拒み続け、目薬をさしてずっと経過観察という感じで来ました。

昨年末頃からやっと手術をやって貰おうという気持ちになり、1月に入りお願いしました。お蔭様で何もかもが明るくなり、今までの感じとは全く違い、本当にありがたいと思っています。術後両目をガーゼでおおい、安静にしている間、目の不自由な利用者さんはいつもこのような思いをされているのだなあと思いました。自分に体験して初めてその辛さが解ります。

1月に70歳になり、医療費が2割になると聞いていましたが、誕生月の翌月よりの適用だということが後で解り、自分の勉強不足だったことを反省しています。

当日病院に主人、娘、孫まで面会に来てくれて本当に嬉しかったです。また家には手作り料理まで届けてくれて、私は何もやらないでおいしく頂くことが出来ました。この手術で家族みんなの温かな気持ちに守られて、幸せ者だと思つづく思いました。

健康で働くことができる喜び、丈夫な身体を与えてくれた両親、先祖、色々な人達への感謝の気持ちや相手を思いやるやさしい心を忘れないで、これからもケアを頑張らなくてはと改めて思うことができた10日間の休日でした。

協力会員 森 雪代



ヘルパーだより

85歳のAさんは、全盲で要介護2の利用者さんです。

今迄は、障害福祉サービスの同行援護(視覚障害の方の外出支援サービス)にて、外出の付き添いケアを行っていました。

昨年12月に転倒により左肩を骨折され、安静にしていたための下肢筋力の弱りからデイケアを勧めることになり、その送り出しの準備のケアに30分週3回、介護保険でケアを行うことになりました。紙パンツ・尿パットの交換、着替え介助、移動介助が主な内容です。

初め、歩行介助して玄関先まで誘導するも、段々と筋力の低下と共倒れそうになる危険も伴うようになり、車椅子を導入して移動介助することになりました。そのため、玄関先にスロープを取り付けられるよう引き戸をはずしたり、身体状況も両手が使えるようになって、日々ケアの中味も変化がありました。

ご本人も筋力の弱りを痛感するようになられ、デイケアでのリハビリにも励み、自宅でもベッドの柵につかまって歩行訓練されたりして努力してみえます。

外出では「カラオケ」を楽しみに出かけています。以前のようにまた元気に歩き、希望を持って前向きに生活されるようヘルパーは支援をつづけています。



利用者さんからのことば・・・

弱り目にたたり目で、一時は心が痛みました。ケアマネやヘルパーさんのお蔭で立ち直ると同時に、身体も良くなってきました。

これからも希望を捨てずにやって行きたいと思います。

